

● 金剛禪総本山少林寺について

金剛禪総本山少林寺は、日本のどの宗派にも所属していない単立寺院であるが、墓地を管理し檀家によって維持され、葬式や法要を主とする一般の寺院仏教の寺ではない。

金剛禪は死後の救いを第一とする教えでなく、生きている間に身心を修養して自己を確立し、己れをよりどころとする正しい釈尊の教えを伝え、人生の種々の悩みから脱却して、生きることを楽しくする教化の道であり、道院は自己を完成するための行である霊肉一如の修練法、易筋行を演練する道場である。

● 教 義

本宗団の信仰の中心は大宇宙の大靈力たるダーマである。

ダーマは宇宙の根本実相であり、大生命であり、大光明であり、大靈力である。この大靈力は無形なるが故に、見ることは出来ないが存在は認識できる。

時間と空間を超越して、存在する大引力であり

凡ての生物を、生成化育する大生命力であり

因果応報の、道理を司さざる、大靈力である。

その力は、無限であり、無量であり、無等々である。この大靈力を我等はダーマと称え信仰しているのである。人間は、この大宇宙の大靈力の分身として存在し、その分靈たる靈魂を所有していることを認識する。故に、靈魂とその住家である肉体を修養すれば、その本然の靈力を顕現せしめて、無病強健、歓喜悦楽の人生を経験して天寿を全うし得ると認識するものである。茲に於て、我等は、大靈力ダーマに信心帰依し大聖釈尊の遺教たる、自己を確立し、己れを寄り所とする道を極め、祖師ダルマの遺法を奉じて精進修行し、霊肉一如、行念一致の功德によって必ず成道し得ると信ずるのである。

● 摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩、深般若波羅蜜多を行ずる時、五蘊は皆空なりと照見して、一切の苦厄を度したまふ。舍利子よ、色は空に異ならず、空は色に異ならず、色は即ち是れ空、空は即ち是れ色、受想行識も亦復是の如し。舍利子よ、是の諸法の空相は、不生にして不滅、不垢にして不淨、不増にして不減なり。是の故に、空の中に色も無く、受・想・行・識も無く、眼・耳・鼻・舌・身・意も無く、色・声・香・味・触・法も無く、眼界も無く、乃至、意識界も無し。無明も無く、亦無明の尽くことも無く、乃至、老死も無く、亦老死の尽くことも無し。苦・集・滅・道も無し。智も無く、亦得も無し。無所得なるを以ての故に、菩提薩埵の般若波羅蜜多に依るが故に、心に罣礙無し。罣礙無きが故に、恐怖有ること無し。一切の顛倒夢想を遠離して、究竟涅槃す。三世の諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たまふ。故に知る。般若波羅蜜多是れ大神呪なり。是れ大明呪なり。是れ無上呪なり。是れ無等等呪なり。能く一切の苦を除く。真実にして虚からず。故に般若波羅蜜多の呪を説かん。即ち呪を説いて曰く。掲諦掲諦、波羅揭諦、波羅僧揭諦、菩提薩婆訶。般若心經

金剛禪総本山少林寺

教 典

第 期 氏名（ ）

● 聖句

- 己れこそ己れの寄るべ、己れを措きて誰に寄るべぞ、良く整えし己れこそ、まこと得がたき寄るべなり。
- 自ら悪をなさば自ら汚れ、自ら悪をなさざれば自らが淨し、淨きも淨からざるも自らのことなり、他者に依て淨むることを得ず。

● 誓願

- 一、我等此の法を修めるに当り、祖を滅せず師を欺かず、長上を敬い、後輩を侮らず、同志互いに親しみ合い援け合い、協力して道の為につくすことを誓う。
- 一、我等一切の既往を清算し、初生の赤子として、真純単一に此の法修行に専念す。
- 一、此の法は、済生利人の為に修行し、決して自己の名利の為になすことなし。

● 礼拝詞

- 謹みて天地久遠の大みちから、ダーマを礼拝し奉る。
- 我等、無始よりこのかた、煩惱にまつわれて造りたる、もろもろの罪とがを、悉く懺悔し奉る。
- 我等、この身今生より未来に至るまで、深く三宝に帰依し、み教えに従い奉る。願わくば良き導きと加護を垂れさせ給え。
- 南無ダーマ

● 道訓

- 道は天より生じ、人の共に由る所とするものなり、その道を得れば、以て進むべく、以て守るべく、その道を失すれば、即ち迷離す、故に道は、須臾も離るべからずと、いう所以なり、人生れて世にある時、人道を尽すを貴ぶ、まさに人道に於て、はざる処なくんば、天地の間に立つべし、若し人あり、仁、義、忠、孝、礼の事を尽さざれば、身世に在りと雖も、心は既に死せるなり、生を偷むものとゆうべし、凡そ人心は、即ち神なり仏なり、神仏即ち靈なり、心にはざる処なくば、神仏にもはざる処なし、故に一動一静、総て神仏の監察する処、報応昭々として、毫厘も赦さざるなり、故に天地を敬い、神仏に礼し、祖先を奉じ、双親に孝に、国法を守り、師を重んじ、兄弟を愛し、朋友を信じ、宗族相睦み、郷党結び、夫婦相和し、人の難を救い、急を援け、訓を垂れて人を導き、心を至して道に向い、過を改めて自ら新にし、悪念を断ち、一切の善事を、信心に奉行すれば、人見ずと雖も、神仏既に早く知りて、福を加え、寿を増し、子孫を益し、病い減り、禍患侵さず、ダーマの加護を得られるべし。

● 信条

- 一、我等は、魂をダーマよりうけ、身体を父母よりうけたる事を感謝し、報恩の誠をつくさんことを期す。
- 一、我等は、愛民愛郷の精神に則り、世界の平和と福祉に貢献せんことを期す。
- 一、我等は、正義を愛し、人道を重んじ、礼儀を正し、平和を守る眞の勇者たることを期す。
- 一、我等は、法を修め、身心を練磨し、同志相親しみ、相援け、相譲り、協力一致して理想境建設に邁進す。